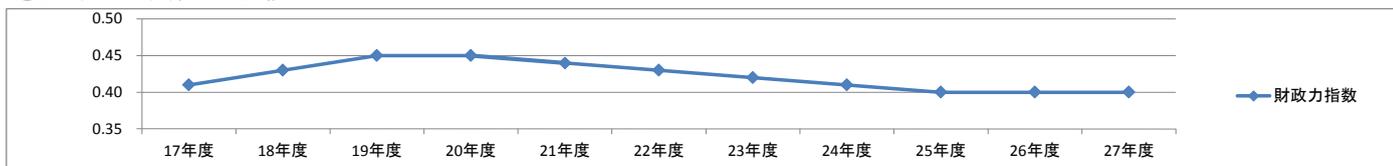


本市の財政状況

①財政力指数の推移

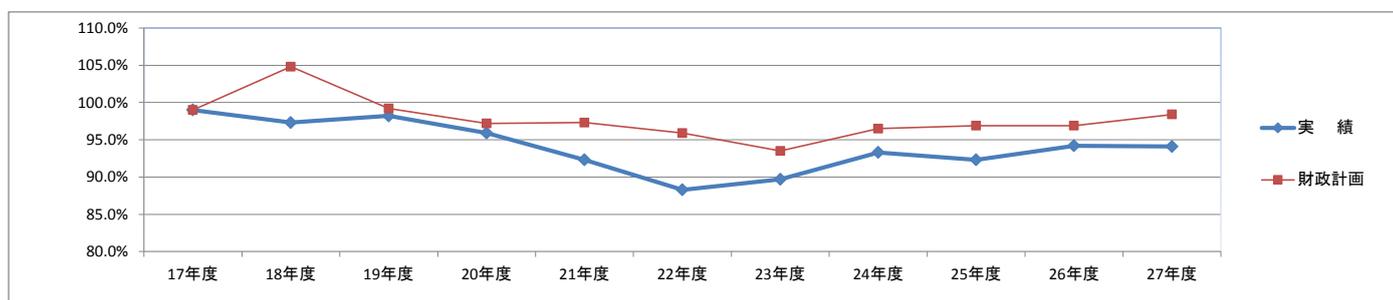


	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
財政力指数	0.41	0.43	0.45	0.45	0.44	0.43	0.42	0.41	0.40	0.40	0.40

財政力指数とは、普通交付税算定に用いた基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の3カ年平均値であり、財政力を示す指数として用いられ、数値が高いほど財源に余裕があるとされています。

本市の財政力指数は、平成19年度の税源移譲により一時上昇しましたが、景気低迷等による市税、国有資産所在市町村交付金の減少により平成21年度以降は低下していましたが、平成25年度以降は0.40となっております。

②経常収支比率の推移

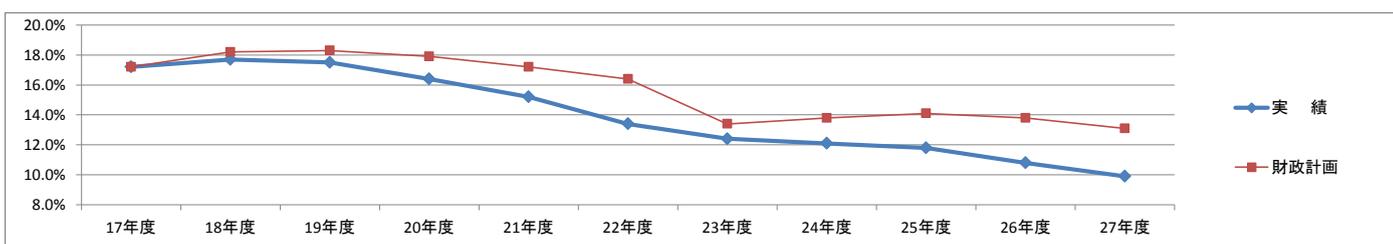


	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実績	99.0%	97.3%	98.2%	95.9%	92.3%	88.3%	89.7%	93.3%	92.3%	94.2%	94.1%
財政計画	99.0%	104.8%	99.2%	97.2%	97.3%	95.9%	93.5%	96.5%	96.9%	96.9%	98.4%

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を示す指標であり、人件費、公債費等の経常経費に、税、普通交付税等の経常的な一般財源が充当された割合で、比率が低いほど財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くなることを表します。

本市の経常収支比率は、平成20年度以降は行政改革の取組みと国の交付税措置等により、年々低下してきましたが、平成24年度以降は、市税・国有資産等市町村交付金などの減により上昇しています。

③実質公債費率の推移

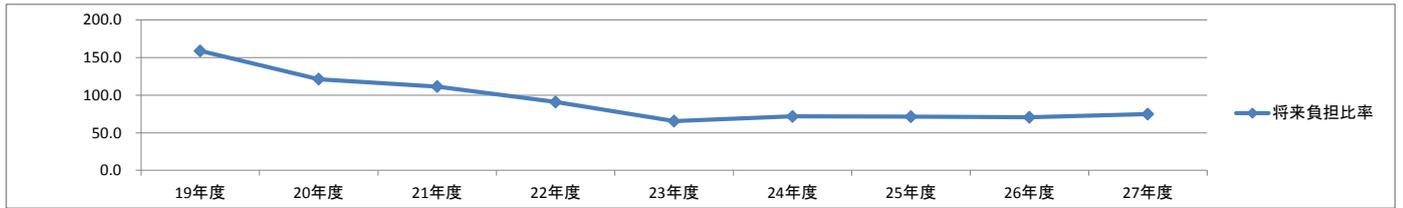


	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
実績	17.2%	17.7%	17.5%	16.4%	15.2%	13.4%	12.4%	12.1%	11.8%	10.8%	9.9%
財政計画	17.2%	18.2%	18.3%	17.9%	17.2%	16.4%	13.4%	13.8%	14.1%	13.8%	13.1%

実質公債費比率とは、一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模に対する比率（3カ年の平均値）で、借入金（地方債）の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示す指標ともいえます。また、地方公共団体財政健全化法の健全化判断比率の一つであり、この比率が18%を超えると許可団体へ移行します。

本市の実質公債費比率は、新規借入の抑制と繰上償還、平成20年度以降の普通交付税の増加による標準財政規模の拡大により年々低下しております。平成24年度以降も合併特例事業債や緊急防災・減災事業債等の活用により市債残高は増加しておりますが、普通交付税に算入される公債費の増等により低下しております。

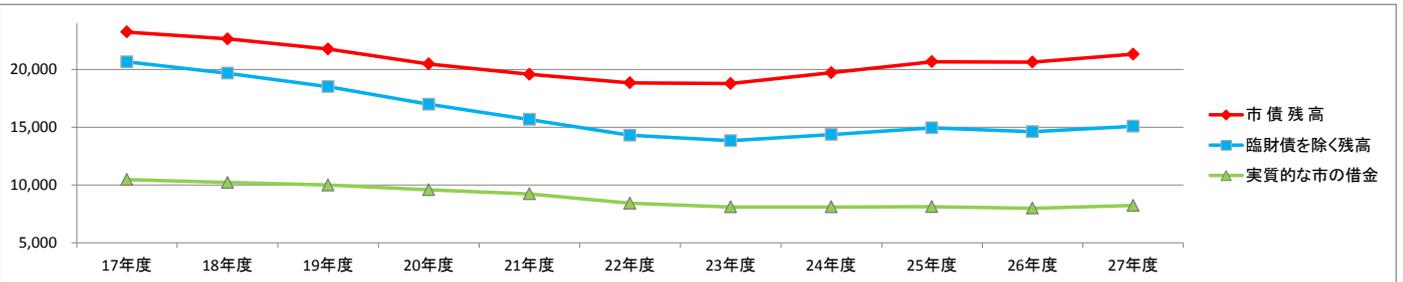
④将来負担比率の推移



	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
将来負担比率	—	—	158.8	121.4	111.6	91.0	65.5	71.8	71.4	70.7	75.0

将来負担比率とは、地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模等の額に対する比率で、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標でもあり、350%が早期健全化基準とされています。

⑤市債残高の推移



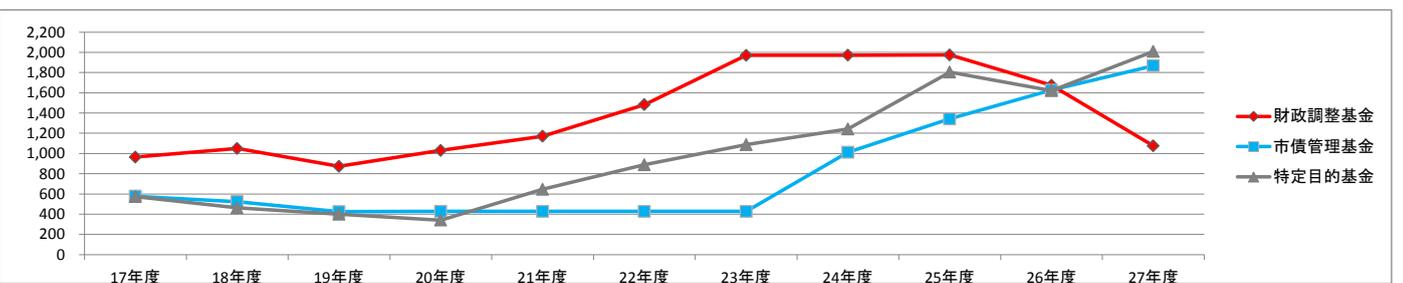
単位：百万円

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
市債残高	23,227	22,633	21,763	20,467	19,565	18,829	18,762	19,699	20,664	20,623	21,311
臨時債を除く残高	20,643	19,666	18,498	16,967	15,658	14,297	13,818	14,353	14,940	14,611	15,073
実質的な市の借金	10,464	10,198	9,979	9,568	9,222	8,411	8,095	8,093	8,114	7,987	8,215

市債残高は、17年度末に比べ、平成27年度末では約19億円の減となっています。また、後年度に100%交付税措置される臨時財政対策債を除いた市債残高は、平成27年度末で約151億円で、さらに、その他の交付税措置される分を除く実質的な市の借金は約82億円で、平成17年度末と比べ、約23億円減少しています。

平成24年度以降、合併特例事業債や緊急防災・減災事業債等の活用により市債残高は増加しておりますが、実質的な市の借金は、80億前後で推移する見込みです。

⑥基金残高の推移



単位：百万円

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
財政調整基金	964	1,050	873	1,030	1,170	1,482	1,970	1,971	1,973	1,674	1,075
市債管理基金	578	524	425	427	427	428	428	1,011	1,342	1,626	1,868
特定目的基金	574	463	399	341	646	889	1,088	1,243	1,804	1,622	2,009
計	2,116	2,037	1,697	1,798	2,243	2,799	3,486	4,225	5,119	4,922	4,952

基金は、平成20年以降は行財政改革の着実な取り組みにより増加しておりますが、平成26・27年度は財源不足による取崩しをしております。なお、基金残高は、平成27年度末で約49億円で、平成17年度に比べ、約28億円増加しております。

- 自由に使える「財政調整基金」は、10億75百万円(平成17年度に比べ、約1億円の増)。
- 合併特例債等の償還に備える「市債管理基金」は、平成27年度末で18億68百万円(平成17年度に比べ、約13億円の増)。
- 「特定目的基金」は、ふるさと寄附金基金の増加により平成27年度末で20億9百万円。